

【声明】

「県民のいのち、暮らし、仕事を守る県政」へ
市民と野党の共同を広げ、公約実現めざしてがんばります。

2021年7月22日

憲法が輝く兵庫県政をつくる会

憲法が輝く兵庫県政をつくる会は、2021年7月18日投開票の兵庫県知事選挙に、金田峰生候補を擁立し、18万4,811票（得票率10.09%）を獲得し、前回選挙より得票数・率とも前進しました。ご支持いただいた県民のみなさん、猛暑のなか、コロナ感染症対策を行いながらご支援をいただいたみなさんに、心から感謝を申し上げます。

今回の選挙は、井戸知事の退任により新人同士が争うものとなりました。コロナ禍で県民の命と健康、暮らしが脅かされる中、すべての候補者に、保健所を減らし、公立病院の統廃合を進めてきた井戸県政に対する評価、態度が問われた選挙でした。井戸県政で副知事をつとめた金沢和夫氏は60万票（得票率32.8%）の得票にとどまり、井戸県政からの変化を求める投票が多数をしめる結果となりました。当選した斎藤元彦氏は85万票余を獲得しましたが、得票率は46.9%で知事選史上初めて半数を下回り、過去最低の得票率での当選となりました。

私たち憲法県政の会と金田峰生候補は、①抜本的なコロナ対策で、いのちと暮らし・仕事を守る、②ジェンダー平等、すべての人の尊厳を守る、③地域の産業を支え、農林水産業を基幹産業に位置づけ、雇用を守る、④子どもの未来をひらく、の4つのチェンジで、県民のいのち、暮らし、仕事を守る県政への転換を訴えました。選挙戦を通して、これらの政策への共感は広まり、女性、若い世代、医療従事者、中小業者など、コロナ禍で苦難にあえぐ幅広い方々からの支援と激励が、政党支持の違いを越えて寄せられました。投票日の直前まで、会と金田候補の政策を掲載したチラシはよく読まれ、多くの共感の声が寄せられました。政策が届けば、支持が広がることを実感する選挙戦でした。それだけに、すべてのみなさんに政策を届けきる点で、力不足があったことは大きな反省材料です。

会と金田候補がかかげた公約は、どうしても実現せねばならないものばかりです。みなさんとともに、県民要求実現のとりくみを続けていく決意です。

今回の選挙戦には、自民党が二つに割れたことと長く県政を支えてきたいわゆる「オール与党」の枠組みが崩壊したという歴史的な特徴がありました。分裂した自民党が推した金沢、斎藤の両候補が「継承」と「刷新」で争うかのような構図が、マスコミなどによって描き出されましたが、二人の間には、井戸県政に対する評価でも、今後に向けた政策でも大きな違いはありませんでした。

憲法県政の会と金田候補は、二人の自民党候補では県民の願いがかなえられないこと、県政を転換するには県民と野党の幅広い共同が必要であることを明らかにし、金田候補を先頭に、国政野党のみなさん、市民運動にとりくんでいるみなさんとの懇談を重ねました。政党として推薦をいただいたのは日本共産党のみでしたが、「オール与党」体制の崩壊という新しい条件の下で、あらためて県政転換のための共同を広げる努力を継続していきます。

選挙結果のより深い分析については、ご支援をいただいたみなさんをはじめ、多くの方々のご意見に耳を傾け、あわせて私たちの取り組みの点検も行いながら、今後にかす所存です。一層のご支援をよろしくお願いいたします。